

21世紀 COE プログラム「言語・認知総合科学戦略的研究教育拠点」主催
国際学術フォーラム

去る5月25日(日)、東北大学21世紀COEプログラム(人文科学)「言語・認知総合科学戦略的研究教育拠点」主催による国際学術フォーラム「第1回「言語・脳・認知」国際学術フォーラム:「言語・脳・認知」科学研究の最前線」が、仙台国際センターにおいて開催されました。出席者は、本COEプログラムの関係教官や大学院生に加えて、北海道大学、弘前学院大学、岩手大学、盛岡大学、秋田大学、山形大学、東北工業大学、東北福祉大学、尚絅学院大学、宇都宮大学、茨城大学、上智大学、明治大学、淑徳大学、国立生理学研究所、大阪大学、追手門学院大学、関西学院大学などからの教官、学生、一般の方など、全国から約140名にのぼりました。

本COEプログラムは言語学を中心にして、脳科学、人工知能、心理学など言語科学の関連分野にまたがる研究教育拠点を形成し、言語の仕組の解明や失語症、人間とロボットの対話などへの応用を目的としています。このフォーラム開催の主な趣旨は、人工知能学・ロボット工学、認知心理学、認知神経科学・脳科学、生成言語学、機能言語学などの分野の最前線で活躍中の先生方の招待講演を通じて本COEプログラムが目指す学際的研究活動に資するための最新の研究成果を共有することにあります。

まず、本学大学院情報科学研究科の中野栄二教授が「人とロボット間のコミュニケーション」と題して、福祉ロボット研究に関する最新成果について講演し、次に、東北工業大学教授・前東北大学電気通信研究所所長の沢田康次教授から「感覚運動系先行制御と意識」という題目で脳と意識の問題に関しての講演がありました。昼食をはさみ、京都大学霊長類研究所の中村克樹助教授が「相手の情動を読み取る:脳機能画像研究からの考察」という題で非言語コミュニケーションと脳の関係について講演しました。さらにアメリカ言語学会前会長の米国ワシントン大学フレデリック・ニューマイヤー教授が「文法と自然言語」という題目で、生成文法を中心とした文法研究の流れについて講演し、続いて、日本言語学会元会長である米国ライス大学柴谷方良教授から「人間言語の形式と機能」と題し、言語類型論の観点からの講演がありました。最後に、講師を務めた沢田教授、ニューマイヤー教授、及び柴谷教授の3人によるパネルディスカッションが行われ、分野の枠を超えた議論がなされました。講演やパネルディスカッションでは、参加者からの質疑応答も行われ、教官だけでなく大学院生も含めて活発で有意義な意見の交換がなされました。



(中野教授による招待講演)



(パネルディスカッション 左から司会の中村助教授(本学)、沢田、柴谷、ニューマイヤーの各招待講師)

(国際文化研究科)